

*2016年4月27日にジュネーブで発表されたプレスリリースの抄訳です。

PR No. C2799C

2016年4月27日

ST マイクロエレクトロニクス 2016年第1四半期の業績を発表

- 2016年第1四半期の純売上は16.1億ドル、売上総利益率は33.4%
- スマート・ドライビングおよびIoT分野における成長に向けた組織を構築
- 2016年第1四半期は、戦略的注力分野をサポートする車載製品およびマイクロコントローラの売上が前年同期比で成長

STマイクロエレクトロニクス(NYSE:STM、以下ST)は、本日、2016年4月2日決算の第1四半期の業績結果を発表しました。

2016年第1四半期の純売上は16.1億ドル、売上総利益率は33.4%、1株当り0.05ドルの純損失となりました。

社長兼最高経営責任者(CEO)であるカルロ・ボゾッティは、次の様にコメントしています。

「STの2016年第1四半期の業績結果は、不安定なマクロ経済や複雑な産業動態にもかかわらず、予測に沿ったものとなり、通常の季節要因よりも良い結果となりました。」

「第1四半期の売上は前期比で3.3%の減少となりましたが、当社は、前年比でのプラス成長へ回復するべく取り組んでいます。既に、第1四半期においては車載製品とマイクロコントローラの2つの重要な製品分野で成長が始まっており、車載製品ではさまざまな車載システムへの採用、マイクロコントローラではSTM32ファミリが成長を牽引しています。両製品分野の売上は、STの2015年の売上の50%に相当します。両製品事業は、スマート・ドライビングおよび産業、ホーム、都市向けやコンシューマ・アプリケーション用のIoTに注力する当社の戦略の中心です。今期の結果は、当社が行った戦略的な選択が、良い結果をもたらしていることを表しています。」

四半期 財務サマリー

U.S. GAAP (百万ドル)	2016年 第1四半期	2015年 第4四半期	2015年 第1四半期
純売上	1,613	1,668	1,705
売上総利益率	33.4%	33.5%	33.2%
営業利益(損失)	(33)	25	(19)
純利益(損失) - ST 帰属分	(41)	2	(22)

Non-U.S. GAAP ⁽¹⁾ (百万ドル)	2016年 第1四半期	2015年 第4四半期	2015年 第1四半期
営業利益 - 減損費・再構築費計上前	(5)	29	10
フリー・キャッシュフロー	31	148	41
純財務ポジション	439	494	512

⁽¹⁾ U.S.GAAP方式への調整ならびに詳細情報は付属資料を参照ください。

製品グループ別 四半期 財務サマリー

2016 年第 1 四半期に、ST は戦略的に注力する「スマート・ドライビング」および「IoT」分野において、製品間のより高い相乗効果を実現するため、製品グループを、オートモーティブ & ディスクリート グループ (ADG)、アナログ & MEMS グループ (AMG) およびマイクロコントローラ & デジタル IC グループ (MDG) の 3 製品グループへ組織を再編しました。現在、再構築プランが進行中のセット・トップ・ボックス (STB) 用 IC 事業は MDG に含まれており、完了時には年間で 1 億 7000 万ドルのコスト削減を見込んでいます。過去の数値は、2016 年の製品グループに従い、遡及調整の上、報告されています。

製品グループ別 純売上 (百万ドル)	2016 年 第 1 四半期	2015 年 第 4 四半期	2015 年 第 1 四半期
オートモーティブ & ディスクリート グループ (ADG)	671	637	674
アナログ & MEMS グループ (AMG)	369	370	445
マイクロコントローラ & デジタル IC グループ (MDG)	532	614	530
その他 ^(a)	41	47	56
合計	1,613	1,668	1,705

^(a)「その他」の項目の純売上には、イメージング製品事業部、サブシステム、組立サービスの売上やその他の収入が含まれています。

2016 年第 1 四半期のレビュー

2016 年第 1 四半期の純売上は、前期比で 3.3%の減少で、当社の予測に沿ったものとなり、全体的に季節要因が反映された結果となりました。ST で最大の製品グループであるオートモーティブ & ディスクリート グループ (ADG) の売上は前期比で 5.4%増加しました。特にヨーロッパにおける車載製品の堅調な需要に牽引されましたが、ディスクリート製品に関する厳しい市況と季節要因により一部相殺されました。また、アナログ & MEMS グループ (AMG) の売上は、前期と同等レベルでした。一方、マイクロコントローラ & デジタル IC グループ (MDG) は、前期の良好な状況から、前期比で 13.4%の減少となりました。

前年同期比で純売上は 5.4%の減少となり、為替のマイナス影響、および段階的な撤退を進めている一部モバイル製品、カメラ・モジュール、STB 用 IC を含む事業の影響を除くと 3.3%の減少となりました。これは、主に軟調な市場の影響を反映しています。しかしながら、一部の製品分野では売上が増加しました。車載製品およびマイクロコントローラの売上は、為替のマイナス影響を除いた場合、4.0%以上増加しています。

ST は、2016 年第 1 四半期に、地域別販売組織を、EMEA 地域、アメリカ地域およびアジア・パシフィック地域の 3 つに再編しました。日本・韓国地域およびグレーターチャイナ・南アジア地域を統合し、アジア・パシフィック地域を設置しました。販売地域別売上は、前年同期比で EMEA 地区が 3.0%の増加、アメリカ地区が 8.0%およびアジア・パシフィック地区が 8.6%の減少となりました。

2016 年第 1 四半期の売上総利益は 5 億 3800 万ドル、売上総利益率は 33.4%となりました。この売上総利益率には、余剰設備コストに起因する約 60 ベーシス・ポイント相当のマイナス影響が含まれています。売上総利益率は、前年同期比で 20 ベーシス・ポイント改善しました。これは、価格低下の影響が、ヘッジ分を除く為替のプラス影響、余剰設備コストの低下および製造効率の改善により一部相殺されたことによるものです。前期比では、売上総利益率は 10 ベーシス・ポイントの減少となりました。これは、製造効率と価格低下の影響が、余剰設備コストの低下、製品構成の改善、ヘッジ分を除く為替のプラス影響より一部相殺されたことによるものです。

2016 年第 1 四半期の研究開発費と販売および一般管理費の合計は、前年同期の 5 億 9100 万ドルから減少し、5 億 7100 万ドルとなりました。これは主に、ヘッジ分を除く為替のプラス影響と、2015 年にコスト削減プランが完了したことによるものです。前期比では、研究開発費と販売および一般管理費の合計は 1200 万ドル減少しました。これは、ヘッジ分を除く為替のプラス影響と、昨年第 4 四半期よりも会計日数が少ないことによるものです。

2016 年第 1 四半期のその他の収入および支出の合計(純額)は 2800 万ドルの収入でした。これは主に研究開発助成金によるものです。

2016年第1四半期の減損費・再構築費計上前の営業損失⁽¹⁾は売上のマイナス0.3%に相当する500万ドルでした。前年同期の営業利益は売上のプラス0.6%に相当する1000万ドルでした。これは、売上減少および価格低下が、ヘッジ分を除く為替のプラス影響、製品構成および製品効率の改善に一部相殺されたことが反映されています。ADGおよびMDGの営業損益は前年同期比で改善した一方、AMGは売上低下により利益率が低下しました。

2016年第1四半期の減損費・再構築費は2800万ドルで、これは主に、初期段階にあるSTB用IC事業の再構築プランに関連しています。

2016年第1四半期の純損失は4100万ドルとなり、一株当たり純損失は0.05ドルでした。前年同期の純損失は2200万ドル、前期の純利益は200万ドルでした。

有効平均為替レートは、2016年第1四半期は1ユーロ=約1.10ドルで、2015年第1四半期は1ユーロ=約1.23ドル、2015年第4四半期は1ユーロ=約1.11ドルでした。

キャッシュフローとバランスシートの抜粋

2016年第1四半期の設備投資額(資産売却収入後の純額)は1億ドルでした。前年同期ならびに前期は8900万ドルでした。

2016年第1四半期末時点の在庫は13.0億ドルとなり、前期より4%増加しました。2016年第1四半期の在庫回転率は3.3回転(109日)でした。

2016年第1四半期の株主への配当金支払い額は8800万ドルでした。2016年4月1日、STのスーパーバイザリー・ボード(取締役監査役会)は、発行済み普通株式1株当たり配当金を0.24ドルとし、各四半期の支払い当月に記録されている株主に対して、2016年第2四半期、第3四半期、第4四半期および2017年第1四半期に、各0.06ドルの配当金の支払いを実施する議案を定時株主総会に提出することを発表しました。STの定時株主総会は、2016年5月25日にアムステルダム(オランダ)で開催されます。

2016年4月2日時点のSTの純財務ポジション⁽¹⁾は4億3900万ドルで、2015年12月31日時点は4億9400万ドルでした。2016年4月2日時点のSTの金融資産の総額は20.4億ドル、負債総額は16.0億ドルでした。

2016年第1四半期末時点の株主資本合計は、非支配持分を含め、48.2億ドルとなりました。

⁽¹⁾ Non-U.S. GAAP方式で計算。U.S. GAAP方式への調整ならびに詳細情報は付属資料を参照ください。

2016年第2四半期の見通し

カルロ・ボゾッティは、今後の見通しとして次の様にコメントしています。

「複数の四半期にわたる市場軟化の後、第1四半期中には市場に回復の兆しが見え始めました。受注は全ての販売地域において改善しており、特に自動車分野と産業分野が回復しています。これに基づき、当社の第2四半期の純売上は前期比で約5.5%を中間値とする増加になり、売上総利益率は中間値で34.0%になると予測しています。」

当社は、2016年第2四半期の純売上が、前期比で約5.5%±3.5%の増加になると予測しています。売上総利益率は、余剰設備コストが約60ベース・ポイントのマイナス影響を与え、約34.0%±2.0%になると予測しています。

この見通しは、2016年第2四半期の有効平均為替レートを1ユーロ=約1.12ドルとした推測と既存のヘッジ契約の影響に基づいています。2016年第2四半期の決算日は、2016年7月2日です。

最近の企業発表

- 4月1日、STは、2016年5月25日にアムステルダム(オランダ)で開催される定時株主総会に提出する主要議案を発表しました。スーパーバイザリー・ボード(取締役監査役会)によって提起された主要議案は、以下のとおりです。

- 国際財務報告基準(IFRS)に従って作成された2015年 法定会計年次報告書の採択。2015年12月31日決算のこの法定会計年次報告書は、2016年4月1日にオランダ金融市場庁(AFM)へ提出され、ST(www.st.com)ならびにAFM(www.afm.nl)のウェブサイトに掲載。
- 発行済み普通株式1株当たり配当金を0.24ドルとし、各四半期の支払い当月に記録されている株主に対して、2016年第2四半期、第3四半期、第4四半期および2017年第1四半期に、各0.06ドルの配当金の支払いを実施。
- 2016年の定時株主総会で任期満了となるAlessandro Ovi氏の後任として、Salvatore Manzi氏をスーパーバイザリー・ボード(取締役監査役会)メンバーとして選任(任期3年、2019年の定時株主総会で任期満了)
- Janet Davidson氏をスーパーバイザリー・ボード(取締役監査役会)メンバーに再任(任期3年、2019年の定時株主総会で任期満了)

定時株主総会に関する全ての議案ならびに関連詳細情報や資料は、STのウェブサイト(www.st.com)において閲覧可能になる予定です。

2016年第1四半期 製品およびテクノロジーのハイライト

オートモーティブ & ディスクリート グループ(ADG)

- ヨーロッパの大手車載機器メーカーより、日本・ヨーロッパの高級車メーカー向け77GHzレーダー・システム用に、車載用32bitマイクロコントローラ(マイコン)の受注を獲得しました。
- ヨーロッパの大手車載機器メーカーより24GHzレーダー用トランシーバICの受注を獲得し、ヨーロッパの主要自動車メーカー向け死角検知システム用の受注を拡大しました。
- 大手車載機器メーカーより、複数の自動車メーカー向けの車載ゲートウェイ制御用に、40nmプロセス技術を採用した車載用32bitマイコンの受注を獲得しました。
- 日本の大手車載機器メーカーより、日本の主要自動車メーカー向けブレーキ・システム用に、プラットフォームの受注を獲得しました。
- 複数の主要顧客において、車載用32bitマイコン「SPC56ファミリ」の採用が増えており、米国およびヨーロッパ市場において継続的にシェアを伸ばしています。
- 電気自動車のトラクション・インバータ向けに、SiCパワーMOSFETの受注を複数獲得しました。
- IoT機器(ウェアラブル機器、スマートウォッチ、水道メータおよびGPS機器など)の通信モジュール向けRFソリューションが、急速な成長を維持しました。
- 産業・自動車・通信インフラの主要メーカーより、中耐圧ファストリカバリ・ダイオードの重要な受注を獲得しました。
- 中国の大手スイッチング電源メーカーより、ゲーム機用コンソールの160W・300W電源向けの受注を獲得しました。
- 中国の大手通信事業者が使用する新しい無停電電源装置向けのサプライヤに認定されました。

アナログ & MEMS グループ(AMG)

- 中国のトップ・ブランドが販売するスマートフォンおよびウェアラブル・バンドの旗艦モデル向けに、6軸センサ・モジュールの受注を獲得しました。
- 中国の大手メーカーより、次世代ウェアラブル機器向けに大気圧センサの受注を獲得しました。
- 大手スマートフォン・メーカーの旗艦モデル向けに、光学手ブレ補正用センサ、6軸センサ・モジュール、および圧力センサの受注を獲得しました。
- ヨーロッパの主要ナビゲーション機器メーカーが開発したウェアラブル機器向けに、地磁気センサおよび6軸センサ・モジュールの出荷を開始しました。
- 大手メーカーより、新しいアクティビティトラッカー向けに、低消費電力かつ高性能な加速度センサおよびBluetooth® Low Energy通信用ICの受注を獲得しました。
- 最新のMEMSモーション・センサが、スイスの高級時計ブランドに採用されました。
- 世界の主要顧客向けに、高効率な6軸センサ・モジュールのサンプル出荷を開始しました。
- カーナビおよびテレマティクス分野における主導的地位により、車載用ジャイロ・センサの累積出荷数が100万個以上に到達しました。
- ヨーロッパの大手車載機器メーカーのエアバッグ向けに、加速度センサの量産を開始しました。
- タッチスクリーン・コントローラIC「Fingertip」の受注を5件以上獲得することで中国における顧客ベースを拡大すると共に、同製品の量産も開始しました。
- ヨーロッパの主要メーカーより、次世代電気メータ向けに初の受注を獲得しました。

- Google社が提唱する次世代48Vデータセンター・アーキテクチャに対応し、優れた電力変換効率を実現するICを発表しました。

マイクロコントローラ & デジタル IC グループ(MDG)

- 米国メーカーより、次世代スマートウォッチ向けに STM32F7 の受注を獲得しました。
- 大手メーカーの HDD 用高機能バッテリー充電器向けに STM32F0 の設計受注を獲得しました。
- 車載規格に準拠した 32bit セキュア・マイコンを発表しました。
- ARM mbed のウェアラブル機器用リファレンス設計において、セキュアな NFC 処理を可能にする NFC コントローラおよびセキュア・エレメントの受注を獲得しました。
- 複数の主要メーカーの次世代タブレットおよびスマートウォッチ向けに、ST33 をベースとした組み込み SIM の量産を開始しました。
- 交通アプリケーション向けに新しい NFC タグ ST25TB のサンプル出荷を開始しました。
- 4 ボール WLCSP で、1 チャンネルの I²C バスに複数接続できる EEPROM を世界で初めて発表しました。
- ネットワーク・モジュール・メーカーが、データセンター向けのネットワーク・モジュール(100Gbit/秒)のアップグレード用にシリコン・フォトリソグラフィを採用しました。
- 光アクセス・ネットワーク機器向けに、55nm BiCMOS ミックスド・シグナル技術を使用した 2 件の ASIC プロジェクトを獲得しました。
- 中国の顧客 2 社が、スマートフォンのアンテナ・モジュール向けカスタム IC に、H9 RF-SOI ミックスド・シグナル・テクノロジーを採用しました。
- Fingerprint Cards、ジェムアルトおよび Precise Biometrics と共に、ST の組み込みセキュア・エレメント、NFC コントローラ IC および STM32F4 マイコンを搭載したウェアラブル機器およびコンシューマ機器を使用し、指紋認証ソリューションを実証しました。
- 高性能 STM32F7 マイコン、STM32L0 マイコン(3 品種)および STM32L4 マイコン(6 品種)の新製品を、関連する開発エコシステムと共に発表しました。

Non-U.S. GAAP会計方式の財務情報使用に関する補足

本プレスリリースには、減損費・再構築費計上前営業利益(損失)、減損費・再構築費計上前営業利益率、調整済み1株当たり純利益、フリー・キャッシュフローおよび純財務ポジションを含む、Non-U.S. GAAP会計方式の財務情報の補足が含まれています。

読者は、これらの情報は未監査であり、U.S. GAAP会計方式に準拠しておらず、U.S. GAAP会計情報の代用とされない点に注意する必要があります。さらに、そのようなNon-U.S. GAAP会計情報は、他社による同様のタイトルを持つ情報と比較できない可能性があります。

当社のNon-U.S. GAAP会計情報から該当するU.S. GAAP会計情報への調整は、本プレスリリースの付属資料をご覧ください。このような制限を補うため、Non-U.S. GAAP会計方式の財務情報の補足は、単独ではなく、U.S. GAAP会計方式に沿って準備された当社の連結決算表と連動して読解する必要があります。

将来予測に関する記述

本リリースの記述のうち過去の事実以外の記述には、経営陣の現時点での見解および推測に基づく将来の見込みおよび将来予測に関する記述(1933年米国証券法第27A条または1934年米国証券取引所法21E条(いずれも修正後)に該当する)があり、とりわけ以下の要因によって当該記述と著しく異なる結果、業績または状況を引き起こす既知または未知のリスクおよび不確定要因に左右され、且つ本記述にはこれらのリスクおよび不確定要因が含まれています。

- 不確実なマクロ経済状況および業界動向
- 当社が設計・製造・販売する製品に対する顧客の需要ならびに支持
- 計画されている純営業経費削減の実施ならびに(もしくは)公的資金の支援を受けている研究開発プログラムの目的を達成する当社の能力に影響をおよぼす可能性のある予測不能なイベントや状況
- 当社の大手販売代理店の経営難、もしくは主要顧客による購買数の大幅な削減
- 当社の生産設備の稼働力、製品構成および製造能力
- 製造・財務・販売を含む当社の極めて重要な事業活動を支える当社のITシステムの機能性および性能、ならびに当社、または当社の顧客もしくは納入業者のITシステムの不具合
- 外国為替市場や、特に当社が事業に使用するユーロおよびその他の主要通貨との比較における米ドル為替レートの変動性
- 競合他社もしくはその他第三者からの知的財産権に関する請求による影響、および必要とされるライセンスを適正な期間と条件で入手できる当社の能力
- 不採算事業の再編を成功させる能力、ならびに関連する再構築費およびコスト削減の当社の予測した金額、時期からの変動

- 税法の改正もしくは税務監査結果による当社の総合的な税務状況の変化、もしくは当社の業績に影響を及ぼす可能性のある国際租税条約の改正、および税額控除・免除、必要経費、引当金を正確に予測し、繰延税金資産を実現する能力
- 進行中の訴訟および当社が被告となる可能性がある新たな訴訟の結果
- 当社の部材を搭載した製品に関する当社顧客からの製造物責任もしくは品質保証の請求、またはリコールの実施
- 当社、顧客もしくは納入業者が事業を行う地域における異常気象、地震、津波、火山の噴火もしくはその他天災、健康リスク、伝染病などの自然現象
- 当社、当社の顧客もしくは納入業者が事業を行う地域における経済、社会、労働、政治もしくはインフラ環境の変化(マクロ経済もしくは地域的な事象、軍事衝突、社会不安、労働争議またはテロ活動が原因となるものを含む)
- 原材料、設備、第三者への製造委託サービスもしくは当社の事業運営で必要とされるその他供給品の調達およびその費用

将来予測に関するこれらの記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けます。そうした様々なリスクや不確定要因は、当社の事業の実績と効率が将来予測に関する記載と大きく異なる要因となりえます。将来予測に関するいくつかの記述は、「思います」、「期待します」、「可能性があります」、「予期されます」、「はずです」、「でしょう」、「しよう」とし、「見込まれます」もしくは同様の表現、またはその否定表現もしくはその他の表現の変化、類似する専門用語、あるいは戦略、計画、または意向に関する議論により識別することができます。これらのリスク要因は、2016年3月16日に米国証券取引委員会に提出された当社の2015年12月31日終了年度フォーム20-Fに関する年次報告書に含まれる「第3項 主要情報 – リスク要因」に記載され、詳細に議論されています。これらのリスク要因または不確定要因の1つ以上が具体化した場合や、基礎となる前提が誤りであることが判明した場合、実際の結果が予測、確信、期待によって本リリースに記載した結果と大きく異なる可能性があります。当社は、後発事象や状況を反映させるために本リリースに含まれる業界情報または将来予測の記述を更新する意向はなく、かつ更新する責任を一切負いません。

STマイクロエレクトロニクスのコンファレンス・コールおよびウェブキャストに関する情報

STマイクロエレクトロニクスの経営陣は、2016年4月27日に2016年第1四半期の業績に関するコンファレンス・コールを行います。

コンファレンス・コールは、2016年4月27日 水曜日 日本時間16時30分(中央ヨーロッパ標準時 9時30分 / 英国標準時 8時30分 / 米国東部標準時 3時30分 / 米国太平洋標準時 0時30分)より行われる予定です。このコンファレンス・コールはインターネット(<http://investors.st.com>)で配信されます。コンファレンス・コールにアクセスするには、事前にこのURLに接続し、必要なオーディオソフトをダウンロード&インストールする必要があります。(この作業に15分程度要します。)また、このコンファレンスコールの内容は同ウェブサイト上に記録され、2016年5月13日まで聴くことができます。

ST マイクロエレクトロニクスについて

ST は、私たちの暮らしに欠かすことのできないエレクトロニクス機器に、優れた性能と高い電力効率を特徴とした半導体を提供する世界的な総合半導体メーカーです。あらゆるシーンで活躍する ST の製品は、お客様が開発する次世代モバイルや IoT 機器の他、よりスマートな自動車、工場、都市および住宅を可能にします。ST は、生活をより豊かにする技術革新を通じ、「life.augmented」の実現に取り組んでいます。ST は、10 万社を超えるお客様に半導体を提供しており、2015 年の売上は 69.0 億ドルでした。さらに詳しい情報は ST のウェブサイト(<http://www.st-japan.co.jp>)をご覧ください。

◆ IR 関係お問い合わせ先

Tait Sorensen
Group VP, Investor Relations
STMicroelectronics
TEL : +1 602 485 2064
MAIL : tait.sorensen@st.com

◆ 報道関係者お問い合わせ先

〒108-6017 東京都港区港南 2-15-1
品川インターシティ A 棟
ST マイクロエレクトロニクス(株)
コーポレートコミュニケーション部 迫(さこ)/内芝
TEL: 03-5783-8220 FAX: 03-5783-8229

付属資料
ST マイクロエレクトロニクス
財務情報に関する補足

販売チャネル別 純売上 (%)	2016 年第 1 四半期	2015 年第 4 四半期	2015 年第 1 四半期
直販売上	67%	67%	70%
ディストリビューション・チャネル経由売上	33%	33%	30%

2016 年第 1 四半期、ST は、戦略的に注力する「スマート・ドライビング」および「IoT」分野において、製品間のより高い相乗効果を実現するため、製品グループを、オートモーティブ & ディスクリート グループ(ADG)、アナログ & MEMS グループ(AMG)およびマイクロコントローラ & デジタル IC グループ(MDG)の 3 製品グループへ組織を再編しました。現在、再構築プランが進行中のセット・トップ・ボックス用 IC 事業は MDG に含まれており、完了時には年間で 1 億 7000 万ドルのコスト削減を見込んでいます。過去の数値は、2016 年の製品グループに従い、遡及調整の上、報告されています。

製品グループ別 売上・営業利益(損失) (百万ドル)	2015 年 第 1 四半期	2015 年 第 2 四半期	2015 年 第 3 四半期	2015 年 第 4 四半期	2015 年 通年	2016 年 第 1 四半期
オートモーティブ & ディスクリート グループ(ADG)						
- 純売上	674	714	706	637	2,731	671
- 営業利益(損失)	36	46	68	44	194	39
アナログ & MEMS グループ(AMG)						
- 純売上	445	445	411	370	1,671	369
- 営業利益(損失)	37	30	34	8	109	2
マイクロコントローラ & デジタル IC グループ(MDG)						
- 純売上	530	558	590	614	2,292	532
- 営業利益(損失)	(28)	(1)	22	36	29	(3)
その他^(a)						
- 純売上	56	43	57	47	203	41
- 営業利益(損失)	(64)	(63)	(33)	(63)	(223)	(71)
合計						
- 純売上	1,705	1,760	1,764	1,668	6,897	1,613
- 営業利益(損失)	(19)	12	91	25	109	(33)

(a)「その他」の項目の純売上には、イメージング製品事業部、サブシステム、組立サービスの売上やその他の収入が含まれています。「その他」の項目の営業利益(損失)には、余剰設備コスト、減損費用、再構築費、工場の閉鎖や立ち上げ関連費用、その他の配分できない費用(戦略的もしくは特別な研究開発プログラム、企業レベルでの営業経費、特許請求ならびに特許訴訟、各製品グループに配分できないその他のコストなど)や、イメージング製品事業部、サブシステムおよびその他の製品の営業利益が含まれています。「その他」の項目には、余剰設備コストが 2016 年第 1 四半期には 1000 万ドル、2015 年第 4 四半期には 3000 万ドルおよび 2015 年第 1 四半期には 1900 万ドル含まれています。また、減損費、再構築費および工場の閉鎖関連費用が、2016 年第 1 四半期には 2800 万ドル、2015 年第 4 四半期には 400 万ドル、2015 年第 1 四半期には 2900 万ドル含まれています。

(次ページへ続く)

(付属資料 - 続き)

ST マイクロエレクトロニクス
Non-U.S. GAAP 方式による財務情報に関する補足
U.S. GAAP と Non-U.S. GAAP 会計方式情報の調整
(1 株当たりデータ以外は 100 万 US ドル単位)

このプレスリリースに記載されたNon-U.S. GAAP会計情報に関する補足は、未監査であり、固有の制限を受けることがあります。このようなNon-U.S. GAAP会計方式の情報は、いかなる包括的な会計規則もしくは原則に基づくものではなく、また、U.S. GAAP会計方式の代用であるとみなすべきではありません。また、当社が提示するNon-U.S. GAAP会計方式の財務情報に関する補足は、他社によって使用された同様のタイトルを持つNon-U.S. GAAP会計方式の情報と比較可能ではありません。個々のNon-U.S. GAAP会計方式に対する特定の制限、およびNon-U.S. GAAP会計方式の財務情報を提示する理由については、以下に詳しく説明します。このような制限を補うために、Non-U.S. GAAP会計方式の財務情報に関する補足は、単独ではなく、U.S. GAAP会計方式に沿って準備された連結決算書と連動して読解する必要があります。

減損費・再構築費・一時特別費計上前営業利益(損失)は、経営陣が進行中の事業への理解を深め、除外項目の影響を検討するために使用しており、再構築費ならびに減損費用、その他の閉鎖費などを除外しています。調整済み純利益および1株当たり利益は、経営陣が進行中の事業への理解を深め、除外項目の影響を検討するために使用しており、STの減損費ならびに再構築費、その他の閉鎖費、その他一時特別費、相当する税金の純影響などを除外しています。

当社は、Non-U.S. GAAP会計方式は、買収効果や進行中の事業結果の一部と考慮されない活動や事業所の合理化に関連する費用を除きビジネスから収益性を得る能力を測定するため、投資家や当社の経営陣にとって有益な情報であると考えています。U.S. GAAP会計方式による数字とあわせてこれらの指標を読解することにより以下を提供します。

- (i) 進行中の事業結果の四半期単位の比較をより価値あるものとする能力
- (ii) 当社のビジネス傾向を識別したり傾向分析を実行する能力
- (iii) 当社の事業結果を投資家や分析家の財務モデルや評価とより簡単に比較する手法

2016年第1四半期 (百万ドル、1株当たりセント)	売上総利益	営業利益 (損失)	純利益	該当EPS
U.S. GAAP	538	(33)	(41)	(0.05)
減損費・再構築費		28	28	
法人税等(予測値)			(3)	
Non-U.S GAAP	538	5	(16)	(0.02)

2015年第4四半期 (百万ドル、1株当たりセント)	売上総利益	営業利益 (損失)	純利益	該当EPS
U.S. GAAP	559	25	2	0.00
減損費・再構築費		4	4	
法人税等(予測値)			(4)	
Non-U.S GAAP	559	29	2	0.00

2015年第1四半期 (百万ドル、1株当たりセント)	売上総利益	営業利益 (損失)	純利益	該当EPS
U.S. GAAP	566	(19)	(22)	(0.03)
減損費・再構築費		29	29	
法人税等(予測値)			(1)	
Non-U.S GAAP	566	10	6	0.01

(次ページへ続く)

(付属資料 - 続き)

財務状況の純変動(資産・負債)は、当社全体の財務資産と財務負債の差額を表したものです。当社の財務資産には、現金および現金等価物、有価証券、短期預金および制限付き現金が含まれ、財務負債には、短期借入金、長期借入金の内の1年内の返済分および長期借入金が含まれており、それら全ては当社の連結貸借対照表で報告されています。財務状況の純変動は、現金、現金等価物および有価証券、そして財務負債全体のレベルに基づいて当社の資本資源を評価することで、純債務もしくは純現金の観点から当社のグローバルなポジションの証明となるため、投資家にとって有用な情報であると考えています。財務状況の純変動は、U.S. GAAP 会計方式ではありません。

財務状況の純変動(純財務ポジション) (単位:百万ドル)	2016年 4月2日	2015年 12月31日	2015年 3月28日
現金および現金等価物	1,697	1,771	1,949
有価証券	343	335	338
財務資産合計	<u>2,040</u>	<u>2,106</u>	<u>2,287</u>
短期借入金	(173)	(191)	(200)
長期借入金	(1,428)	(1,421)	(1,575)
財務負債合計	<u>(1,601)</u>	<u>(1,612)</u>	<u>(1,775)</u>
財務状況の純変動	439	494	512

フリー・キャッシュフローは、営業活動による純現金から、有価証券の売買による受取・支払金、短期預金、制限付き現金、合併会社非連結化による現金変動(純額)を除く投資活動による純現金を差し引いたものと定義されています。フリー・キャッシュフローは、企業運営を支えるための営業活動ならびに投資活動の現金を生み出す能力を評価することができるため、投資家や経営者に有用な情報であると当社は考えています。フリー・キャッシュフローは、U.S. GAAP 会計方式ではありません。また、財務活動によるキャッシュフローを含んでいないため、キャッシュフロー全体を表すものではありません。さらに、当社のフリー・キャッシュフローの定義は、競合他社の定義と異なる可能性があります。

フリー・キャッシュフロー (単位:百万ドル)	2016年 第1四半期	2015年 第4四半期	2015年 第1四半期
営業活動による純現金	141	245	149
投資活動による純現金	(110)	(98)	(108)
有価証券の売買による受取・支払金、短期預金による投資、制限付現金、合併会社非連結化による現金変動(純額)	-	1	-
フリー・キャッシュフロー	31	148	41

(終わり)